

令和4年度第1回 鶴岡市文化会館運営委員会 会議録

日時：令和4年10月27日（木）

午後2時00分～3時40分

会場：鶴岡市櫛引庁舎 第一会議室

[出席者]

委員：草加叔也氏（会長）、太下義之氏（副会長）、三浦正信氏、伊藤博氏、
渡部真喜氏、兼子由香氏、齋藤範夫氏

事務局：【鶴岡市教育委員会】布川敦教育長、本間明教育部長、沼沢紀恵社会教育課長、
石川誠社会教育課芸術文化主査、渡邊雅之芸術文化係専門員
【指定管理者（タクトつるおか共同企業体）】
有地裕之、押切良輔、榊原賢一、佐藤潤到、軍司愛

[公開・非公開の別] 非公開

1 開 会

2 挨拶（教育長・会長）

3 協議

(1) 令和4年度事業報告について
事務局より資料説明：資料1

会長：委員の皆様から質問・意見を伺う。

委員：自主事業・共催事業の集客は順調に回復してきていると感じる。

一方、タクトの持ち味が出るワークショップやアウトリーチにはもう少し参加者がほしい。内容は良いと思うので、適正な目標人数を検討しながら運営して欲しい。

委員：ネーミングライツ企業としてタクトの活動には日常的に注目している。

タクトの情報発信と活用の方法が重要だと感じる。コロナ禍前後で状況が変わったが、工夫しながら運営に取り組んでいると思う。

活用状況について、活動内容や稼働日数などの評価指針が考えられると思うが、関心の高い内容を市民に提供できる文化施設としての意義を高めて欲しい。

子どもが文化的素養を磨くためのイベントも開催されているが、伝統芸能や有名歌手等の公演とのバランスを工夫しながら、市民が年に一度は足を運んでみようと思わせる施設になってほしい。文化的意識の高い市民に利用されることで良い方向に発展していくと思う。

委員：市民サポーターとして公演のサポートをしている。交流・にぎわい創出事業のロビーコンサートでのライブ配信はとても良い企画だと実感した。

フロントスタッフ研修会は、タクト職員と市民サポーターが普段感じていることを話し合い共有することができて有意義だった。

公演サポートを通じてコロナ禍だからこそ生じる課題があることを実感しており、市民サポーターの立場としてどのように改善していけばよいか考えることがある。With コロナの中で公演をしていくにあたり、どのように注意していくかが今後も課題だと思う。

今年度は酒井家庄内入部 400 年関連の事業がタクトで行われ、鶴岡の知名度がアップしていると感じる。その中で文化施設としてのタクトの魅力を発信し、多くの人に伝え、足を運ぶきっかけになってほしい。紙媒体など、携帯電話以外で高齢者が情報を得る方法も必要だと感じる。また、対象年齢が高い公演が多いように感じるので、小学生から高校生が興味を持てる事業があればいい。

委員：小学生はアウトリーチや親子参加型の事業でタクトを利用する機会がある。一方、サークル・団体に所属してタクトを利用している高校生もいるが、多くは部活動や勉強が忙しくタクトの事業への参加が難しい。小さい頃からタクトに慣れ親しみながら成長すると、高校生になっても関心を持ち続けるようになるのではと思う。

総合文化祭など、高校生主体の文化活動をしながら、小さい子供などの様々な人

にも見てほしいと思った。やはり小さい頃から文化活動に触れることで、大人になっても継続して興味を持ち続けると感じる。タクトの事業を高校生に周知して多くの人に広めていきたい。

委員：中学生はミュージカルやコンサートに興味があるのではと推測する。コンサートにしても、歌手によっては中学生が興味を持たないので、若年層に人気の高い歌手の公演などの企画があればタクトに足を運ぶと思う。

市内中学校の合唱祭で利用しているが、舞台に立つことは一生の中でも貴重な体験になると思うので、これからも続けていきたい。学校とは全く異なった環境で、当人たちの満足感や達成感が大きい。素晴らしい舞台で何かを発表した経験から、文化・芸術活動を志す子供が出てくる可能性がある。小学生から高校生が舞台に立って何かを発表する機会をたくさん設けることで、鶴岡から文化に親しむ人や一流の文化人が出てくるのではないかと期待している。

知名度の高い方々が来ると市民が足を運ぶのではないか。また、駐車場の混雑状況などによって来館者が苦勞する場合があると聞いているので、今後対応してほしい。

会長：学校から部活動が離れる方向と聞いているので、文化施設が担う役割も次第に大きくなっていく。ぜひ、学校教育と上手な関係を作っていただきたい。

委員：様々な事業を実施しているが、特に子供向けの育成関連事業が非常に充実している。子供がそのような体験をするのは未来への投資になると思うのでぜひ継続してほしい。また、より多くの子供が体験できる形の事業があると良い。実際に体験した子は鶴岡の中のごく一部ではと思うので、教育委員会で予算を取る等してもっと事業を充実していくと、タクトの大きな特徴になっていくと思う。

補助金といっても、タクトが直接申請する補助金、公演する団体が申請する補助金、行政やバレエ連盟等の分野別団体が申請する補助金や委託費等、非常に多様に存在する。それらをリサーチして活用するとコストを抑えつつ様々な事業展開ができると思うので、今後チャレンジしてほしい。

会長：鑑賞事業以上に、育成、アウトリーチ、参加体験、地域発信、交流・にぎわい等、多様な事業が厚みを増してきて、地域に根差していこうとする姿勢が伝わった。報告の中で公文協からの表彰があったが、そのように外部から表彰されるような事業を一つずつ積み重ねてほしい。

質問とお願いがある。スタッフ研修会について、どのようにスタッフを研修し、劇場の運営に生かしていこうとしているのか知りたい。

お願いとしては、統計資料が単年度としては見やすいが経年変化が分かりづらいので、活動が発展していることが分かる表記にしてほしい。

事務局（JV）：スタッフ研修会について回答する。大体年に2回、外部の専門講師を呼んで接客研修等を行っている。具体的には、お客様に対する言葉遣いやクレーム対応、またコロナ禍で特殊な対応が必要になる場合の方法などを学んでいる。前回は実際の状況に即したシミュレーションを行った。客席を実際に暗転させ、公演中に遅れて客が来たという設定で、どのような対応が出来るかという内容だった。

また、この他にタクト職員による基礎的な研修を定期的に行っている。これらを踏まえて、次の公演からはステップアップした対応ができるように勉強している。

会長：タクトの活動を内部から見るとは、事業評価の際に意見を出す参考になると思うので、ぜひそのような機会を生かしていただきたい。

他に質問・意見などはあるか。

委員：公演の誘致について質問したい。まず、芸能プロダクション等からの会場使用（公演開催）の依頼があり、またはタクトから依頼をする。タクトはいずれにしても会場使用料を徴収するので、入場者数が少なくても赤字にならない仕組みということか。

事務局（JV）：鑑賞事業には二パターンある。ひとつは、買取公演という形で、公演料を相手方の制作会社・イベント会社に支払い、入場料収入はタクトに入る。公演料等を入場料収入が上回れば黒字となるパターン。

もうひとつは、共催事業として、有名アーティスト等の公演料は高額だがお呼びしたい方に対して施設利用料を減免する。代わりに、市民先行販売で鶴岡市民がある程度チケットを確保することを条件にするパターン。相手方は施設利用料の減免により経費を抑えることができ、市民先行販売によって集客が望める。タクトは有名アーティストを公演料の支払い無しに呼べるという、双方にとってメリットがある形。チケット販売手数料を得ているので、施設利用料収入が無くても黒字が出る事業になる。買取公演・自主事業については、チケットの完売や黒字が見込めるアーティストを見極める判断が必要になるが、なるべく完売になるような公演を誘致している。

委員：市民等から有名アーティスト等を呼びたいという要請があった場合、どのような収支や誘致の仕組みになるのかの確認のために質問した。仕組みについて理解した。

会長：それでは3. 協議の(2) 令和5年度事業計画案について事務局より説明をいただきたい。

(2) 令和5年度事業計画について

事務局より資料説明：資料2

会長：委員の皆様から質問・意見を伺う。

委員：定期的に「タクトしんぶん」を送っていただき店舗に置いている。毎回気付くと無くなっているの、市民の皆さんは興味を持っている様子だ。Facebook や Instagram は元々興味を持っている人しかフォローせず、情報を得られる人が限られる。ふと立ち寄った所で手に取ることができる新聞という形で広報していくことは、まだまだ可能性を広げるやり方なので続けてほしい。また、広報の場所の拡大を検討してもよいと思う。

事業内容については、昨年度に引き続きオンラインや YouTube 等を活用していくと面白い事業なので、継続してほしい。

委員：年代によって来館者の趣味嗜好は変わっていく。時代に即したニーズを上手く引き出し、事業内容を一定程度リニューアルすることを計画に盛り込む意識づけをしてみてもどうか。

特に自主事業は黒字にする工夫が必要なので、市民のニーズを調査して関心を引き起こすことを検討してほしい。節目でアンケート等を行うことで、市民は要望の受け入れ体制があることを認識し、意見を言ってみようという気持ちになると思う。

委員：先日、酒田地域で「タクトしんぶん」を目にした。今後、鶴岡地域だけでなく、他の地域にも宣伝してタクトの魅力を発信し続けていって欲しい。

予算や事前準備等もあるので、バランスをとって事業を行うのは本当に大変なことだと思う。

やはり地域密着型の事業は、市民がとても楽しみにしている。例えばワンコインコンサートは500円で鑑賞できるので、それをきっかけに初めてタクトに来たというお声もある。魅力のある事業を継続し、また新しい事業も取り入れながら、タクトの事業が地域の方々に分かっていただけのものになればと思う。

委員：若年層は J-pop コンサートに誰が来るのかという関心があると思うので、上手く情報発信・宣伝してほしい。

学生たちは、まずワンコインや無料という点に魅力を感じると思う。ただ、一度足を運んで良い体験をすることでリピーターになっていく。高校に「タクトしんぶん」が置いてあるので、生徒に宣伝していきたい。

委員：合唱祭などの学校行事に父兄が入場できない状況なので、父兄のみに YouTube 配信しているがとても視聴数が多い。それだけ子供のことには興味を持っているということ。そのため、育成事業で配信可能なものがあれば、なるべく様々な人に見てもらうのがよいかと感じた。

委員：来年3月にまちなかキネマが再オープンして連携事業の企画も持ち上がると思うが、同じ建物に社会福祉協議会の本部が移転してくる。ぜひ、来年度はタクトを拠点とした福祉の取り組みを模索してほしい。すぐに事業の企画ができなくても、まずは社会福祉協議会との話し合いなどから始めてほしい。

フィンランドにはクリエイティブエイジングという活動がある。高齢者が家に引きこもるのではなく、文化活動をしながら、色々な人たちとコミュニケーションをとって元気に生き生きと暮らすということに、国として取り組んでいる。文化施設等において高齢者に対する音楽教育を進めており、「ロックハブ」というプロジェクトがある。60歳以上の高齢者が新たにロックを始めて、未経験者もサポートを受けてエレキギターやドラムなどの楽器を覚えることができる。そして、同じような音楽的嗜好がある高齢者同士をマッチングさせ、バンドを作るサービスを行っている。

音楽活動でないにしても、高齢者が文化活動に体を動かし参加することで、仲間を作り元気になる場を作ることも劇場ホールの役割の一つだと思う。ぜひ、社会福祉協議会とともに取り組んでほしい。

会長：劇場が色々なものにアクセスするためのハブという役割を担うのはとても重要なこと。何かに挑戦するためのきっかけを作ることは、劇場が担う大きな役割なのでぜひ検討してほしい。

「タクトしんぶん」が酒田市に置いてあることは、酒田市民がタクトの取り組みに関心を持つきっかけになる。定住人口を増やすのは簡単ではないが、関心人口を増やすことは地域にとってとても重要なこと。文化施設がそのきっかけになることは良いことだと思う。市外からの来館者をますます増やしていくことが重要だろう。

事業計画書によると、4,514万円の総事業費のうち730万円を指定管理費以外の外部資金から獲得している。税金に全く頼らない運営は難しいが、指定管理費が今

後大幅に増額されることは見込めない。そのため外部資金を導入する努力をしているのはとても大きいことだと思う。外部資金を増額させていくには、さらに活動への理解を得る努力が必要。

参加・体験事業の中には、劇場がものを作る・創造する活動の方向が見えるものがある。貸館や公演誘致に留まらず、オリジナルのものを発信していくことにチャレンジして、将来的な事業の体系を少しずつ示していければ良い。ただ、急激に新しい方向に発展させるのではなく、事業を継続して実績を積み上げてほしい。

他に質問・意見はないようなので、司会を事務局に返したい。

(3) その他：特になし

4 閉 会（社会教育課長）